

【SS I】第28-29回授業(専門的課題研究中間発表会) 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名(主題) 「専門的課題研究中間発表会」

～研究の途中経過の自己点検と発表スキルの向上を目指して～

2. 本時の主題の概要および設定理由

生徒はこれまで、自ら問いを立て、仮説を設定し、検証方法を模索しながら「専門的課題研究」にチームまたは個人で取り組んできた。本時は、これまでの研究の進捗や論理性を整理し、他者に向けて発表する「中間発表会」である。

本活動は、単なる進捗報告にとどまらず、これまでの研究プロセスを他者に説明することを通じて、研究背景から検証方法に至る論理的な一貫性を客観的に再点検(自己点検)することを第1の目的とする。さらに、限られた発表時間(5分)の中で、スライドのデザインや話し方を工夫し、専門外の聞き手に対しても伝わるように表現するプレゼンテーション技術(発表スキル)の向上を第2の目的とする。

本時では、相互評価フォームを用いたリアルタイムのピア・フィードバックを実施する。また、有志参加の「探究アドバイザー(高校3年生)」からの客観的な評価や指導、および教員によるルーブリック評価を取り入れることで、多角的な視点から研究の強みと課題を浮き彫りにする。この一連の評価・内省プロセスを通じ、生徒が今後の研究計画をより論理的かつ実現可能性の高いものへと自律的に改善していく態度を養うため、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **研究プロセスの客観的自己点検:** 自らの研究の背景、問い、仮説、検証方法を他者に説明することを通して、研究の論理的な繋がりや課題を客観的に検証し、今後の探究活動の改善点を見出すことができる。
- 2) **プレゼンテーションスキルの向上:** 聞き手を常に意識し、言葉・声・視線を工夫した明瞭な話し方や、要点を強調した視覚的なスライドを用いて、自身の研究内容を時間内に効果的に伝えることができる。
- 3) **多角的フィードバックの受容と内省:** 同僚評価(ピア・フィードバック)、高校3年生(探究アドバイザー)からの助言、および教員のルーブリック評価を主体的に受け止め、自己の探究プロセスに活かすりフレクション能力を身に付ける。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: なし
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用評価・リフレクションフォーム: 『相互評価フォーム』、『自己評価フォーム』
- 指導者用評価・コメントフォーム: 『教員用評価フォーム』、『高校3年生用コメントフォーム』
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『専門的課題研究中間発表会 実施要項』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』、『課題研究発表ルーブリック』

5. 本時の展開(100分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
5分	(1) 導入および準備 - 学問分野ごとに指定された各教室に入室し、出席確認を受ける。 - 個人端末を起動し、Classroomより『相互評価フォーム』を準備する。 - 本時の重点目標(「研究の途中経過の自己点検」「発表スキルの向上」と、ルーブリックに沿った4つの評価項目(課題の背景と意義、問いと仮説の適切性、発表の明瞭性、視覚的デザイン)について確認する。 - 教室に配置された「探究アドバイザー(高校3年生)」の紹介を受け、発表会における助言やコメントの役割を把握する。	- 学問分野別の各教室にて、事前に用意された名票に基づき出欠確認を確実に行う。 - 中間発表のルーブリック評価基準を提示し、特に本時の重点目標と連動する評価観点(項目2, 3, 6, 7)を生徒に明示して意識を高めさせる。 - 端末不保持の生徒には『手書き用評価シート』を速やかに配布し、帰宅後に内容を送信するよう指導する。 - 探究アドバイザーを授業冒頭で紹介し、1分程度の自己紹介の時間を設ける。メイン以外の担当教員は、アドバイザーの空き座席への誘導などの対応を行う。
25分	(2) 中間発表パートⅠ(チーム①～④) - 指定された順序に従い、チーム①～④が順次中間発表を行う。 (1チームにつき発表5分、入替2分) - 発表チーム以外の生徒は、発表を聞きながらルーブリックに沿って『相互評価フォーム』に評価とコメントを入力し、入替時間内に送信する。 - 探究アドバイザーは『高校3年生用コメントフォーム』に、教員は『教員用評価フォーム』にそれぞれ評価・コメントをリアルタイムで入力する。	- 各チームの発表時間が5分(質疑応答なし)であることを厳格に守らせ、入替(2分)がスムーズに行えるよう、次の発表チームに事前の待機とスライド投影準備を促す。 - 発表中の生徒に対し、原稿の棒読みを避け、聞き手を意識した発声や視線、スライドの指示棒活用など、プレゼンテーション技術を意識するよう見守る。 - 他チームの発表を聴く生徒が集中して評価を行っているか巡視し、入替時間内でのフォーム送信を徹底させる。
5分	(3) 中間調整 - パートⅠの『相互評価フォーム』の送信漏れがないかを確認する。 - 発表チーム⑤～⑧はスライドの表示確認等の事前準備を行う。	- 未送信の生徒に対し、この時間内に確実に送信を完了させるよう促す。 - 各自の通信状況や発表用端末の接続状況を点検し、後半の進行に滞りがないよう調整を行う。
25分	(4) 中間発表パートⅡ(チーム⑤～⑧) - 指定された順序に従い、チーム⑤～⑧が順次中間発表を行う。 (1チームにつき発表5分、入替2分) - パートⅠと同様に、生徒、探究アドバイザー、教員がそれぞれのフォームからリアルタイムで評価・コメントを入力し、入替時間内に送信する。	- パートⅠの進捗を踏まえ、必要に応じて入替時間の短縮や機器の接続補助を行い、タイムテーブル通りの円滑な進行を図る。 - ルーブリックに示された「発表の明瞭性」および「視覚的表現のデザイン性」について、生徒同士が具体的なコメントを記入できているか確認する。
5分	(5) 中間調整 - パートⅡの『相互評価フォーム』の送信漏れがないかを確認する。 - 発表チーム⑨～⑫はスライドの表示確認等の事前準備を行う。	パートⅡの評価送信を完了させるとともに、長時間の画面注視による生徒の疲労に配慮し、短い休息と姿勢調整を促す。
25分	(6) 中間発表パートⅢ(チーム⑨～⑫) 指定された順序に従い、チーム⑨～⑫が順次中間発表を行う。 (1チームにつき発表5分、入替2分)	- 最後のパートにおいても、発表の質や聴講姿勢が維持されるよう、机間巡視による適切な声かけや見守りを行う。 - 教員は、各チームの「発表の明瞭性(観点6)」を中心に評価を完了し、成績算出のための確実な記録を行う。

	パートⅠと同様に、生徒、探究アドバイザー、教員がそれぞれのフォームからリアルタイムで評価・コメントを入力し、入替時間内に送信する。	
10分	(7) 振り返り、アドバイザー講評、および次年度への案内 - 本日実施した全ての『相互評価フォーム』が送信済みであることを確認する。 - 自身の発表および発表会全体の取り組みを振り返り、Google Classroomより『自己評価フォーム』に入力して送信する。 - 探究アドバイザーより、発表会全体を通じた総括的な講評や、今後の課題研究に向けた助言を聞く。 - 教員から、次年度(SSⅡ)に向けた課題研究の継続と、期末試験終了後に配信される重要な連絡についての説明を聞く。	- すべての『相互評価フォーム』の送信を指導する。送信完了を確認した生徒から、順次『自己評価フォーム』への入力を促す(遅くとも指定の期日までに送信するよう指導する)。 - 探究アドバイザーに対し、全体を総括した温かいフィードバックを求める。終了後、感謝の意を伝え、アドバイザーの下校を指示する。 「専門的課題研究は次年度(SSⅡ)へと継続する」ことを明言し、期末試験終了後に配信されるSSⅡに向けた案内を必ず確認するよう強く指導する。

【参考資料1】 発表内容、スライド構成：タイトルスライドを入れて4枚以上で作成。デザインは自由。

※下の表の一番右の列「メソッド」は『課題研究メソッド』の参照ページを示している。

	発表内容	説明すること	ブレ研究計画書	メソッド
1	研究テーマ	研究テーマについて、分かりやすく説明する。	(1)研究テーマ	p. 142 ①
2	研究背景	リサーチクエストの背景や仮説の根拠となっている事実を述べる。	(2)研究背景	p. 142 ③
3	リサーチクエスト	何がまだ答えの明らかになっていないことなのか、自分たちが何を解決したいのかを明確に説明する。	(3)研究目的 ①リサーチクエスト ②リサーチクエストの意義	p. 143 ④⑤
4	仮説と検証方法	仮説の根拠を現在明らかになっている事実をもとに、論理的に説明する。	(3)研究目的 ③仮説 (4)研究手法	p. 143 ⑥
5	参考文献	本発表で引用・参照した文献をまとめて示す。		p. 145 ⑩

【参考資料2】 評価項目：『SS課題研究ルーブリック表』の8観点のうち、項目2,3,6,7の4観点を評価

	レベル4 (卓越している)	レベル3 (十分できている)	レベル2 (概ねできている)	レベル1 (改善を要する)
課題の背景と意義への理解	知的好奇心と社会背景が結びつき、多角的根拠で意義を示す	意義は説明できるが、自身の問題意識との繋がりが不十分	意義の説明が抽象的で、なぜ自分が取り組むのかが不明瞭	研究の意義や問題意識に至った背景が説明されていない
問いと仮説の適切性	先行研究に基づき本質を捉えた独創的で検証可能な仮説を設定	検証可能な仮説はあるが、先行研究調査や独創性に課題あり	仮説はあるが論理的根拠が弱く、検証方法が不明確	検証可能な仮説として具体化されず、研究の軸が不明確
発表の明瞭性	聞き手を常に意識し、言葉・声・視線まで工夫した対話的発表	流れは分かりやすいが表現が単調で、聞き手への工夫不足	原稿に沿って説明するが、聞き手を意識せず一方的	資料を読むのみで声量不足等もあり、内容が伝わらない
視覚的表現のデザイン性	図表・配色を緻密に設計し、要点を強調して説得力を高める	図表を用いて整理されているが、重要情報の強調が不十分	図表はあるが配置や情報量の調整が不適切で理解しにくい	文字中心の構成で視覚的工夫がなく、理解を妨げている